

教育部会 CISSPワーキンググループ 活動報告

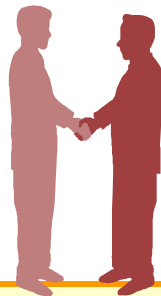
NTTコミュニケーションズ株式会社

大河内 智秀, CISSP

2005年6月13日(月)

Copyright 2005, Japan Network Security Association

1



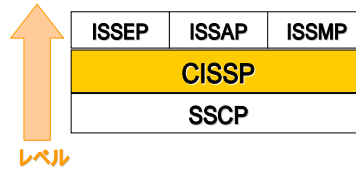
- ・日本において、セキュリティ専門家のためのコミュニティをより活発化するため、相互協力する。
- ・JNSA主導で下記活動を実施する。
日本特有ドメインの調査 ISSJP(CISSP上位資格)策定
CISSP試験問題作成の活発化

Copyright 2005, Japan Network Security Association

2

(International Information Systems Security Certification Consortium)

- 創立：1989年
- 本拠地：アメリカ (タンパ、ワシントンDC)、イギリス、香港、日本
- 米政府公認、非営利団体(NPO)
- グローバルスタンダードの試験を通じた情報セキュリティ専門家の認証
- 認証の基礎となる10ドメイン(分野)の作成及び改定
- 政府機関との協力による政府用セキュリティスタンダード作成
- セキュリティ専門家に対する継続的教育機会の提供
- 2004年6月 ISO/IEC 17024認証取得



CISSP ~ Certified Information Systems Security Professional ~

情報セキュリティに必要な知識を包括的にカバーした、グローバルスタンダードなセキュリティプロフェッショナル認定資格

- 国際的に最も権威あるセキュリティプロフェッショナル認定資格。
- 最も広範囲な知識レベルを必要とする資格で、セキュリティ業務従事者からマネージャーが対象。
- (ISC)2 (国際情報システムセキュリティ認証コンソーシアム) NPOが実施。
- 全世界で31,000名以上(2005年2月現在)が取得。
- 2004年6月にISO/IEC17024を認証取得。

認定資格によるスキルの裏付け

セキュリティプロフェッショナル認定資格制度(CISSP)、これは国際的に認定されている資格であり、この資格の保有者がセキュリティ共通知識分野(CBK)の10分野について、深い知識を有していることを証明するものです。戦略的かつ公平な判断の出来るベンダーフリーの認定資格CISSPにより、セキュリティ専門家としてのスキルの裏付けを提供します。

組織の信用・信頼度向上

現在106カ国、約31,000名のCISSPが各国政府機関、グローバル企業内で活躍しています。CIO、CISOを始めとする管理職、技術職、コンサルタント、営業の中核でIT業務に取り組んでいる方々が、数多く取得しています。体系的にセキュリティを考へるリスク管理を正しく判断できるCISSPが自組織内にいることは、社内資産の保護はもちろん、外部に対する信頼度向上につながります。セキュリティ先進国アメリカでも、国家安全保障局がセキュリティ従事者への推奨資格としているなど、高い評価を得ているCISSPを雇用する組織メリットは明白です。



CISSP認定書

[提供元]
(ISC)² Institute Japan
URL: <http://www.isc2.org/japan>

セミナー・試験出題範囲 (CBK/Common Body of Knowledge)

Information Security Management	Cryptography
情報セキュリティマネジメント	暗号学
Enterprise Security Architecture	Telecommunications, Network & Internet Security
エンタープライズセキュリティアーキテクチャ	通信、ネットワーク、インターネットのセキュリティ
Access Control Systems & Methodology	Physical Security
アクセス制御のシステムと方法論	物理セキュリティ
Applications Security	Business Continuity Planning
アプリケーションセキュリティ	事業継続計画
Operations Security	Law, Investigation & Ethics
運用セキュリティ	法、捜査、倫理

問題数：250問 / 4択(日本語・英語併記)
総時間：6時間
受験費用：68,250円(税込み)

受験条件：
- 10分野全てに関する実用的な知識をもっていること。
- 10分野のうち1つ以上で少なくとも4年以上の経験があることが必須。

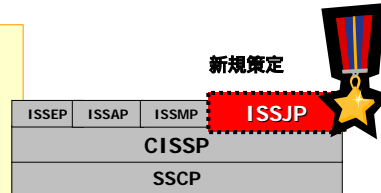
セミナー同時開催
セミナー&試験費用：630,000円(税込み)
セミナー5日間+テキスト代+受験費用を含む

CBKとは、対象レベルの人々と賢い議論を交わすため、情報セキュリティ専門家が多分に理解しておくべき情報セキュリティの知識を分野別にまとめたものです。

日本特有の知識分野を調査し、ISSJPを策定する。

■ **ISSJP Information Systems Security Japanese Professional**

ISSEPに倣い日本のセキュリティビジネスシーンに特化した内容を盛り込むことで、日本企業は勿論のこと日本に進出したい外国企業に対して役に立つ内容を目的とする**CISSPの上位資格**。
シンガポール、中国政府でも同様のローカリゼーションの動きがある。



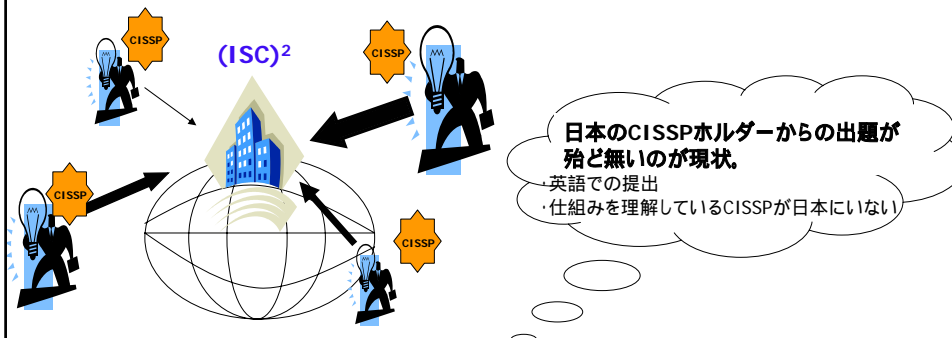
● **Information Systems Security Engineering Professional (ISSEP)**

・ISSEPはNSA (National Security Agency) で、CISSPをベースに政府系業務に特化した要件を含んだ資格として創設され、米国連邦政府におけるセキュリティ関連職従事者及びコントラクターにおける必須資格として認定。
CISSP取得が前提となっている。

NSA:連邦政府の暗号・セキュリティ関連業務を手がける組織。米国の情報システム保護の使命のもと、各種セキュリティに特化した業務を行うと共に、海外での諜報活動のサポートを実施。

日本における、CISSP試験問題の(ISC)²への投稿活動を活発化する。

- CISSP試験の出題は、世界中のCISSPホルダーからの投稿によって常に最新のセキュリティに対応した問題に更新されている。



➡ **JNSA主導で、活発化の仕組みを検討する**

CISSP準備会の活動実績(2004年度)

- 当WGの運営方針や内容(策定ドメインの対象像など)について、**ディスカッションを実施**
(2004年9月～2005年3月、1回/毎月)
 - (ISC)²に対し「**中間報告書**」を提出済み
(2005年3月末)
- 報告書内容…
- ・ISSJPの製作フロー
 - ・新ドメインの対象モデル組織等の検討経緯・結果報告
- **CISSP認定済みのメンバーに対してはCPEポイント付与を実施。**



7

CISSP-WG活動内容(2005年度)

- 準備会から、WGとして活動。
- ISSJP策定のための、日本特有ドメイン調査・検討を行う。
- (ISC)²への報告書提出(2005年9月)
- **CISSP試験問題作成活動**
試験問題の投稿活動を活性化するための施策を検討する。

8



ワーキンググループメンバー(20名)

1	大河内 智秀(NTTコミュニケーションズ)	CISSP	11	斎藤 博樹(ラック)	
2	武智 洋(横河電機)	CISSP	12	奥原 雅之(富士通)	CISSP
3	河野 省二(ディアイティ)	CISSP	13	佐々木 晴子(横河電機)	CISSP
4	伏見 諭(情報数理研究所)	CISSP	14	井出 幸静(セコムトラストネット)	CISSP
5	田野 広季(ラック)	CISSP	15	富田 高樹(みずほ情報総研)	
6	大津 有美(シスコシステムズ)	CISSP	16	佐久間 敦(みずほ情報総研)	
7	近藤 司郎(コンピュータ・アソシエイツ)		17	富澤 亮太(NRIセキュアテクノロジーズ)	
8	萩原 照美(シマンテック)		18	浅野 太寿(ネクストコム)	CISSP
9	与儀 大輔(横河電機)		19	長谷川 長一(日本ユニシス)	
10	滑川 愛恵(NTTコミュニケーションズ)		20	木村 章展(中央青山監査法人)	

オブザーバー:

安田 浩(東京大学国際・産学共同研究センター) CISSP

高村 信(総務省情報通信政策局)

敬称略、2005年6月1日現在

村岡 嗣政(総務省自治行政局)

9

Copyright 2005, Japan Network Security Association



10

Copyright 2005, Japan Network Security Association